

科目名	国際保健学概論	code number : HPM-GH 231	選択	2 単位
-----	---------	-----------------------------	----	------

科目責任者	井上まり子 准教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	前期(後半)	曜日・時限	火曜 3,4時限	授業方法	講義

1. 授業の概要

公衆衛生は今や国際的な視点を抜きに語るができないほどに世界との関連が強くなっている。国際的活躍を志す者だけではなく、すべての公衆衛生のテーマはグローバルな視点で語ることが不可欠であることは、本学SPHのコンピテンシーの1つに国際性が掲げられているとおりである。

国際的な視点から保健医療を理解するうえで重要な健康指標と各種疾病の現状について学び、統計情報を用いて問題の程度を説明できるようにする。さらに、医療人類学の素養、保健医療システムの評価、財政、保健医療サービスについて多角的に議論する基本を学び、グローバルヘルスを考えるうえで重要な論点の整理と理解につとめる。

今も継続して対策が講じられている母子保健や感染症に関する問題から、現在特に注目されている課題、たとえば、非感染性疾患(Non-Communicable Diseases)や健康の社会的決定要因、環境問題、タバコ等にも理解を深める。テーマは多様であるが、国際社会におけるグローバル・ヘルス領域のガバナンス、日本や国際機関の方針や合意など、共通した世界の動向として理解する。

事例に基づく演習なども一部取り入れ、実務経験が豊富な非常勤講師や教員と共に、現場での実際の課題への取り組みを学ぶ。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

- 1.国際社会における公衆衛生領域の重点課題を理解する。
- 2.グローバル・ヘルスに関する日本などの各国、国際機関、民間企業、NGOなどさまざまなステークホルダーの動向を知る。

【行動目標(SBO)】

- 1.世界での代表的な公衆衛生の課題を人口統計や健康指標を用いて説明できる。
- 2.国際的な公衆衛生の課題である貧困、乳児死亡・妊産婦死亡、感染症、環境衛生、健康の社会的決定要因や非感染性疾患、タバコなどの課題の概況を述べられる。
- 3.上記課題に関するステークホルダーの役割を列挙できる。
- 4.日本政府の国際保健政策を説明できる。
- 5.世界におけるグローバル・ヘルスの優先課題など、海外や国際機関などの動向を説明できる。

3. 成績評価の方法および基準

授業で行う課題や宿題 20%、授業中の発言 20%、最終課題 60%

注意) 課題、レポートを再提出または期限に遅れて提出の場合は、原則として減点の対象とする。

再試験または追試験の点数は、原則として減点の対象とする。

4. 教科書・テキスト

各教員が指示する。

5. 参考書

日本国際保健医療学会 編. 国際保健医療学 第3版. 杏林書院, 2013年
Global Health 101 (Essential Public Health) 4th Edition. Jones & Bartlett Learning, 2019
各種国際機関発行の年次報告書

6. 事前事後学修の内容およびそれに必要な時間

- (1) 事前に指定する資料や文献がある講義では、それらは授業前に読み、ディスカッションに参加できるようにしておくこと。当該期間に30時間以上の予復習が必要。
- (2) 最終課題については、2～3日間の準備が必要。

7. その他履修上の注意事項

- (1) 試験やレポートに対し、講義中での解説等のフィードバックを行う。
- (2) この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。
- (3) 海外から参加する非常勤講師の旅程によって、一部講義日程が変更になる場合がある。その際には時間割変更の連絡があるので、注意すること。

<授業計画>

国際保健学概論

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	6/15(月)	5	井上まり子 准教授 錦織 信幸 講師(非)	授業オリエンテーション 国際機関で公衆衛生課題に取り組む ―WHOでの経験から―
2	6/15(月)	6	錦織 信幸 講師(非)	フィールドでの公衆衛生課題解決に関する演習
3	6/16(火)	3	井上まり子 准教授	グローバルヘルスの優先課題・公衆衛生にかかわる国際協力組織 グローバリゼーションによるGlobal Burden of Diseasesへの影響
4	6/16(火)	4	井上まり子 准教授	人口転換・疫学転換 非感染性疾患(Non-communicable diseases(NCDs)) I: 生活習慣病
5	6/23(火)	3	堀内 清華 講師(非)	非感染性疾患(NCDs) II: 精神保健・外傷
6	6/23(火)	4	矢野 榮二 教授(客)	世界のタバコ対策 過去・現在・未来
7	6/30(火)	3	井上まり子 准教授	世界の感染症対策の動向 ―三大感染症、顧みられない熱帯病、多剤耐性菌―
8	6/30(火)	4	井上まり子 准教授	グローバルに語る 働く人の健康・高齢者の健康
9	7/14(火)	3	高橋 謙造 教授	母子保健・学校保健(子どもと地域の健康)
10	7/14(火)	4	高橋 謙造 教授	国際保健の理解に必要な人類学の素養
11	7/17(金)	3	崎坂香屋子 准教授	災害対策の国際的枠組みと実践
12	7/17(金)	4	小玉 千織 講師(非)	世界での健康危機管理 ―現場での実践―
13	7/21(火)	3	山本 秀樹 教授	世界の環境問題・気候変動と健康
14	7/21(火)	4	山本 秀樹 教授	日本に住む外国人の保健医療問題
15	7/28(火)	3	井上まり子 准教授	まとめ 最終課題の報告と検討